

弁証論治

弁証	症状	治則	方剤（方解）
<p>陽虚型（腎陽虚型） （普段から足腰が弱く、下半身が冷えやすい、高齢者に多く見られる）</p>	<p>四肢の冷え（特に下半身）（肢厥）、寒がる（畏寒） （腎陽虚衰のため四肢を始め全身を温陽できない、また陽気虚で推道作用が弱く四肢の循環は悪い） 生殖機能の減退 （陽萎不挙、宮寒不妊） （腎主生殖、腎陽不足、命門火衰） 下肢の浮腫 （陽虚による水邪泛濫の証） 小便不利（排尿量、回数の減少） （気機阻滞により膀胱の気化作用が無力になって水液が停滞） 足腰がだるい（腰膝酸軟）、骨や歯がもろい、物忘れが多い、眩暈 （腎は主骨生髓の働きがあり、その作用が低下したため） 口唇は淡暗青紫、舌質淡暗或いは青紫、苔白潤、脈沈細無力 （命門の火衰退の証） 舌質淡胖、舌苔薄白滑、脈沈細か沈弦（腎虚水泛の証）</p>	<p>温補腎陽 行気利水 （腎陽を補い陽気を高め、利水作用を含め循環を改善）</p>	<p>（金匱）腎気丸（温補腎陽） 熟地黄で腎陰を補い（滋陰補精）、三菟肉で補益肝腎、固渋精気、山薬で健脾補虚、益精固腎、桂枝で温腎助陽、附子で陽を補い（温脾腎散寒、益火補陽）、茯苓で脾の湿を取り除き、沢瀉で利尿する。 鹿茸大補湯（温腎補陽・健脾益気） 鹿茸・肉苁蓉・附子・杜仲で補陽し、人参・黄耆・大棗・白朮・甘草で補気。半夏・茯苓・生姜で脾を健脾して脾運を高め固渋の五味子、また当归・芍薬・地黄で補血する。 牛車腎気丸（温補腎陽・利水消腫） 八味地黄丸（腎気丸）に牛膝・車前子を加え、利尿作用を強化し、桂枝を温補腎陽の肉桂に変えている。山茱萸や山薬の助けの元で地黄は貧血症状を改善し滋養強壯作用を持つ。茯苓や沢瀉、牛膝や車前子は、体内の水分の循環を改善し、余分な水分を除く。牡丹皮で血液循環を改善、肉桂や附子で体をあたため痛みを緩和する。 処方穴（温補腎陽、行気利水） 腎陽火衰：命門（脾気を充足し五臓を養う）関元（三陰経の会穴で三焦の元気が生成される。真陽を補う常用穴）太谿（温補腎陽） 陽虚水泛：水分・陰陵泉（水湿内停による水腫を治療）、腎俞（補腎益精して三焦を調理）関元（命門の火を助け寒邪を除く）手技は補法で行う。</p>
<p>陽虚型（脾陽虚型） （普段から胃腸が弱く、疲れやすい、四肢</p>	<p>下腹部や腰下肢の冷え （脾陽不足から抹消を温める温煦作用が低下したため）</p>	<p>温陽健脾 （温中散寒） （脾胃を暖め、</p>	<p>人参湯＝理中湯（温中散寒・補気健脾） 人参で補脾気、白朮で健脾益気、甘草で補中益気、乾姜で温中散寒、回陽通脈する。 附子理中丸（補虚回陽、温中健脾）</p>

<p>の寒冷) 生ものや冷たい飲料水の取りすぎで脾陽を失う、あるいは腎陽の不足から脾陽を温煦できないために生じる。</p>	<p>下腹部の隠痛(暖めたり按ずると緩解)(寒凝気滞による) 大便是泥状下痢(大便溏薄清稀) (脾の運化機能低下で水寒之気内盛、水湿不化、流注腸中のため) 疲労倦怠、無気力、食欲不振 (気虚のため) 全身の浮腫 (脾の運化機能低下し水湿内停によって肌に停滞する) 舌質は淡胖白滑苔、脈は沈遅弱 (陽虚、水寒の気が内盛の証)</p>	<p>寒を散らし、消化管の機能の促進を図る)</p>	<p>附子を加えることで人参湯より暖める力が強く、附子の鎮痛作用も加わる。 黄耆建(理)中湯(補気固表・緩急止痛・温中補虚) 生姜、黄耆、桂枝で胃を暖め、飴糖、大棗と黄耆で消化管の機能を補う(補中補気)、芍薬で腹部の痛みを和らげる(和里緩急)、 補中益気湯(補中益気、昇陽挙陷) 著しい脾の昇清作用低下による中気下陷(内臓下垂等)の証に用いる。また気虚による発熱にも用いられる。黄耆で補気昇陽、人参、白朮、甘草で健脾益気、陳皮で理気、当帰で補血、升麻、紫胡で昇挙下陷清陽する。 十全大補湯(温補気血) 中気下陷(内臓下垂等)の証に用いる。補気四君子湯と補血四物湯の合剤で気血を同時に補える。益気固表の黄耆を加えて補気生血を強め、温通の桂皮と和胃健脾の人参を加えて陽気を振奮することにより、他薬の効能を補佐する。 処方穴(温陽健脾) 三陰交(通経活絡によって気血を調和、脾陽不振と水湿内困を改善するため脾胃虚寒に有効)、公孫・内関(胸胃の痛みを取る)、足三里(脾の運化作用促進)、中脘(水穀を消化、納気し清微を動かして調中行滞を促進)、梁丘(著明な手足の寒冷を治す、通経活絡による和胃鎮痛)、天枢・大腸俞(脾虚泄瀉の者に加穴) 手技は内関(瀉法)以外は補法で行う。</p>
<p>水湿内停型 (全身がむくみ、全身が冷える、長期化すると動悸、息切れ、喘息等を伴う) 脾陽虚で水湿の運化が低下あるいは腎陽虚で尿としての排泄機能が低下し、水湿が体内(裏)に停滞し、全身へ流溢したために生じ</p>	<p>寒冷時に四肢末梢が冷え、 (寒湿が体内にたまり、気血の流れを滞らせ、四肢の温煦作が低下したため) むくみ(主に顔面)、下痢、 尿量減少、身重 (内停した水湿が肌膚に外溢すると浮腫が生じ、大腸に下注すると泥状~水様便がみられる。水湿が正常に排出されないために、尿量減少(小便不利)を呈する)</p>	<p>利水滲湿 温陽健脾 (体内に溜まった湿を腎臓や消化管の機能を改善するところで排出する)</p>	<p>真武湯(温陽利水) 「腎陽が虚し、水気が内停した状態」つまり水の代謝と排泄を司る腎のエネルギー「腎陽気」が不足し、水が体内に停滞してしまう状態に用いられる方剤。附子は腎陽虚を改善して水の運行を助け、白朮と茯苓は過剰な水を排出。生姜は上記の三つの生薬の働きを助ける。 五苓散(利水滲湿・通陽・解表) 利水滲湿の猪苓・沢瀉・蒼朮・茯苓と通陽化気の桂皮の組み合わせにより、胃腸に停滞する余剰な水分や体内の余剰な水分を通利して排出する。 処方穴(行水行湿、健脾利水) 水分・陰陵泉(行水行湿で水湿内停による水腫を取り除く)、腎俞・脾俞(水湿停滞を運化して取り除く)、商丘(下半身の浮腫が著しい場合、陰陵泉に加穴し、健脾利</p>

る。	痰多く薄く泡状、舌質は淡。		水を促す）中極穴（乏尿の者には本穴を加穴し、膀胱の気の機能改善を行う） 手技は補法で行う。
<p>気逆型（肝気鬱結証） （腹部や胸が張った感じが あり、下腿は冷えるが頭はのぼせやすい） 精神的ストレスなどにより肝の気が鬱滞し、肝機能の疎泄作用を失い、気は逆上している。 また肝血の流れも悪くなっている</p>	<p>四肢末梢の冷え （肝血の不足、肝鬱による肝血のめぐりが悪い） ため） 憂鬱、胸や腹が張って苦しい（胸脇苦満、少腹脹悶） （肝気が鬱結し経気不利のため） 口が苦い、げっぷ、吐き気、眩暈 （肝気が鬱滞して気逆が生じている） 月経痛、月経不順 （気の鬱結が血に及び、血の流れが悪く、衝任脈を肝血で潤すことができない） 舌質は紅、舌苔は薄黄、脈弦数</p>	<p>疏肝解鬱 理気行滞 （肝気の流れをよくし、鬱結を除く）</p>	<p>逍遙散（疏肝解鬱） 疏肝解鬱の柴胡の働きを薄荷が助け、当帰・芍薬で肝血を補い、肝気を柔和にする。柴胡・薄荷と共に肝気の疏泄を調整。健脾の白朮・茯苓・甘草と温める生姜は、脾気を高め運化を良くし肝血の生成を促す。肝気を調整して脾に乗りないようにし、脾を健やかにし肝に乗りられないように防止する。 抑肝散（平肝熄風・補気血） 熄風の釣藤と疏肝の柴胡・川芎及び柔肝の当帰で、肝気を伸びやかにして、痙攣を鎮める。健脾の白朮・茯苓・甘草の配合は、肝血の化源を充たし肝気を柔軟にする。 五積散（辛温解表温里・理気化湿・活血消積・通絡調経） 関節痛等の痛みがあり、下半身が冷える者に用いる。去風散寒の麻黄・白芷と温裏散寒の乾姜・桂皮で内外の寒邪を除く。温燥の白朮・厚朴・茯苓で湿を、半夏・桔梗・陳皮で痰を、陳皮・枳殻で気滞を、川芎・当帰で血滞を、それぞれ除く。芍薬・甘草は、陰液を保護して止痙に働く。全体で寒邪によって生じる寒・湿・気・血・痰の五積を解消する。 温経湯（温経散寒・補血調経・活血化瘀・益气和胃） 手のほてり、口唇の乾燥、下腹部の張った感じ、冷えがある場合。呉茱萸・桂枝・当帰・川芎で温経散寒を図り、牡丹皮で活血散瘀、阿膠・麦門冬・芍薬・当帰で滋陰補血する。合わせて陰血を補充し瘀血を除き、経脈を温めて血行を促進する。人参・甘草・半夏・生姜は、脾胃を健運させて陰血の補充を促す。 加味逍遙散（疏肝解郁、清肝瀉火、健脾補血、清熱涼血） 肝鬱化火の証すなわち眩暈、面赤、眼の充血、乾燥、怒りっぽい、便秘、尿黄、耳鳴り、舌質紅黄色、脈は弦数の場合に用いる。逍遙散に、肝鬱化火に対する清肝瀉火の牡丹皮と山梔子を配合。 知柏地黄丸加味鹿茸、海馬：滋陰降火、滋補肝腎陽 腰がだるい、眼がかすむ、のぼせやほてり、いらいら、喉の痛み、眩暈、耳鳴、口渴、不眠等の陰虚（火旺）証に用いる方剤。養肝益腎・渋精の山茱萸と滋腎補脾・滋精の山薬が主薬である地黄の滋補腎陰作用を補佐し、肝・脾の陰を滋補し精の漏出を防止</p>

			<p>することにより滋腎を強めている。利水滲湿の沢瀉・茯苓は陰虚で流動性をなくした湿濁を取り除き清虚熱の牡丹皮と清熱の沢瀉は陰虚の内熱を冷ます。これら六味丸の処方に瀉火の知母・黄柏を加えて陰虚火旺に適用。さらに滋腎陽の鹿茸、海馬を加えている。</p> <p>処方穴（疏肝解鬱、通経活絡）</p> <p>太衝穴（足厥陰肝経の原穴で肝臓病証の要穴） 蕪中（舒肝理気、開鬱散鬱、寛胸理気）・肝俞（通経活絡、清熱解毒により肝の疎泄作用を促す） 内関（寛胸開鬱、理気养胃） 肝気横逆していれば足三里（補法のみ）・脾俞（健脾利湿、健脾和胃）を加穴する。また公孫は脾の絡穴、胃気上逆を除く。手技は足三里のみ補法で他は瀉法後補法を行う。</p>
<p>寒湿型（寒湿阻滯証）</p> <p>（手足の冷えと重感、冬季や雨期で憎悪）</p> <p>長期にわたり、寒い場所や冷えた環境さらに湿った環境にいてことで寒湿の邪が体内に侵入し陽気の運行が阻害され、四肢の温養ができなくなる。</p>	<p>手足の冷えと重感</p> <p>（寒湿邪が侵入し陽気の運行を阻害、四肢の温養ができない）</p> <p>四肢軽度浮腫</p> <p>（湿邪が停滞し四肢の筋肉に溢れるため）</p> <p>胸悶、眩暈</p> <p>（湿が停滞し気の運行や清陽の上昇を妨げる）</p> <p>悪心・下痢</p> <p>{(湿邪が中焦に停滞し、脾胃の働きが障害（寒湿困脾）)}</p> <p>舌質淡紅、苔白膩、脈濡緩</p>	<p>散寒利湿</p> <p>通陽活絡</p> <p>（寒邪を散らして湿邪を除去することで陽気と血の運行を改善する）</p>	<p>苓姜朮甘湯（去湿散寒止痛、温中散寒、健脾利水）</p> <p>乾姜の温中散寒と白朮・茯苓・甘草の健脾利水で寒湿を除去するとともに、脾運を強めて内湿の産生を防止する。</p> <p>桂枝加朮附湯（散寒利湿）</p> <p>下半身の冷えとむくみが強いタイプ向け。桂枝湯に茯苓と蒼朮、附子を加えた方剤。緩発汗・発散作用のある桂皮、鎮痛の芍薬、茯苓と蒼朮で利湿、体を暖め痛みを取る附子、緩和作用のある甘草が配合。</p> <p>姜活勝湿湯加減（温陽除湿、通絡、活血化瘀）</p> <p>姜活は体上部の湿を除き、独活は下焦の湿を除く。乾姜は陽気を高めて、寒邪を除去。桂枝、桑枝、木瓜で通絡に働き、寒湿に阻害された経絡の通りを改善。桃仁、紅花、地竜、牛膝で活血化瘀に働き、末梢循環を改善。</p> <p>処方穴</p> <p>八風・八邪（手の冷え）、合谷、太衝、足三里、豊隆、陰陵泉。手技は瀉法で行う。</p>
<p>血虚型（血虚受寒証：末梢循環不全型）指先が冷たく、しもやけになりやすい</p> <p>血を貯蔵し、全身に栄養を補給する働きを持つ肝血が不足し、寒邪</p>	<p>指先が冷たくしもやけになりやすい</p> <p>（血虚のため気血が四肢末端へ循環し難い）</p> <p>眩暈、眼精疲労、視力減退</p> <p>（血虚のため脳や目が十分に養われない）</p>	<p>補血調経</p> <p>散寒通絡</p> <p>（血と気を補い、四肢の血行を改善）</p>	<p>四物湯（補血活血・調経）</p> <p>補血の基本方剤。補血の地黄・芍薬・当帰で肝血を補い、活血の当帰・川芎で血をめぐらせる。4薬はともに調経に働く。</p> <p>当帰四逆加呉茱萸生姜湯（温経散寒、養通経脈）</p> <p>冷えがひどく、脈細い、または慢性時に用いる。当帰四逆湯に暖肝止痛の呉茱萸と脾胃を振奮させる生姜を加え、散寒を強めている。当帰と白芍は肝血を補い、桂枝と細辛は寒邪を散寒通経、通草の通経脈で寒凝を除き血脈を通じさせる。甘草と大</p>

<p>がさらにその流れを妨げるために抹消の循環不全で四肢末端を暖めることができない</p>	<p>動悸、不眠（多夢）  （血虚のため心が十分に養われず心神不安に陥るため）  爪がもろい・筋肉のひきつき、しびれ、肌に艶がない  （血虚のため、筋脈、爪、筋肉を養えない）  月経量が少なく色淡い、血虚が進むと閉経  （衝脈・任脈が血虚のため充足不足）  舌質は淡、苔薄、脈は細</p>		<p>棗は健脾により他薬を補佐し諸薬の調和。呉茱萸・生姜は胃寒の嘔吐にも有効。  当帰芍薬散（補血活血・健脾利水・調経止痛）  水滯を伴うときに用いる。当帰・芍薬で肝血を補い、川芎で肝血を体内に巡らせ。白朮で健脾去湿し、茯苓と利水滲湿の沢瀉で脾気を健運する  処方穴（滋陰補血）  神門（安神寧心）、三陰交・隔兪（補血養陰）太衝・足三里（太衝で肝血を養い、足三里で補血して運化機能を高めて血液の回転をコントロールする。また足三里は胃経の合穴で、気血の生化の源であり、後天の精を作って全身を養う。さらに肝の疎泄作用を助け運化能力を促進する）血海（血を脾の大海に戻す、月経不順や崩漏、閉経を治す）三陰交（足太陰、少陰、瘧陰経の交会穴、妊娠禁針）。必要に応じて心兪（養心）と肝兪（調肝養血）を配穴する。手技は補法で行う。</p>
<p>瘀血型（血才阻絡証）  （色が悪く、特に下肢が冷え刺痛感がある）</p>	<p>手足の冷え、しびれや刺痛、顔色や口唇が紫暗色・肌の色が悪い  （瘀血により気血運行が阻害され四肢末端の血流が悪いため）  生理痛や月経痛、月経不順、経血に血塊混じる  （瘀血が衝脈、任脈の気血運行に影響を及ぼすため）  舌質は紫暗～青紫で瘀点や瘀斑が見られることがある。脈は沈澁</p>	<p>活血散瘀  活絡通陽  (瘀血を除き、血の巡りを改善する)</p>	<p>桂枝茯苓丸（活血化才）  下肢の冷えが強く、下腹部の圧痛、月経痛等がある際に用いられ、牡丹皮・赤芍・桃仁で活血去瘀、血瘀に伴う湿滯を利水の茯苓で除く。  冠脈通塞丸（活血化才・理気止痛・補血）  痛みや慢性的な出血、顔色悪く、唇は紫暗色、色素沈着、静脈怒張などが見られる症例に用いる。桃仁・紅花・当帰・川芎・赤芍・牛膝で瘀血を取り除き、気を巡らせる柴胡・枳殻が血の流れを改善。桔梗は体の上部、牛膝は体の下部に働き、血液の流れの効果を全身に働きかける。地黄で血と陰を補う。甘草で各生薬の調和を図る。  処方穴（活血）  血海穴（血の集まる経穴で月経不順や崩漏、閉経を治す）申脈穴（陽明脈の宗穴。血脈、筋脈を伸びやかにする）手技は瀉法で行う。</p>

参照引用：木下優子，産婦人科の実際 57, 2007  
日本健康情報協会（KANPOU INDEX）  
中医治療学マニュアル  
わかりやすい臨床中医臓腑学より引用